

あいちの印刷

11

2022.11
No.612



鬼ヶ城(吉野熊野国立公園)

もくじ

- 巻頭言「何事にも感謝の気持ちを忘れずに」…………… 3
- 2022全印工連フォーラム
DX事業で印刷業界の構造改善…………… 4
滝澤会長メッセージ…………… 6
- 全印工連「CSRサミット2022」
SDGsを企業経営にいかにかかすか…………… 8
- 令和5年新春 印刷と関連業界
「新年互礼会」開催のご案内……………10
- 愛印工組・10月期理事会
CSRサミット・全印工連フォーラムを報告……………11
- 「過労死等防止啓発月間」に併せ
11月は「過労死等防止啓発月間」……………12
- お知らせ……………13
- 全印工連
「CSRマガジン」発行……………14
- 全印工連
第38回CSR認定で138社に！……………14
- 日産産連
第68回GP認定で439事業所に！……………14
- 編集だより……………14

人に 社会に 想いを カタチに

O//O 愛知県印刷工業組合

FUJIFILM
Value from Innovation

成長は、「省資源」から。

もっと強く、もっと付加価値の高い印刷ビジネスを実現するために
富士フィルムは提案します—— 成長は、「省資源」から。

材料・工数・水・エネルギー・排出、

これまでの「コスト」を減らし利益に還元。

製版・印刷工程を軸にした、

独自のソリューション「FUJIFILM SUPERIA」が

あなたの会社をどこよりも強いものへ変えていきます。

**FFGSは、戦略的『省資源』で、
トータルコストダウンを支援いたします。**

FUJIFILM
「減らす」がつくる、クオリティ **SUPERIA**

富士フィルム グローバルグラフィックシステムズ株式会社 中部支社 〒460-8404 名古屋市中区栄一丁目12番17号 富士フィルム名古屋ビル 052(201)8171 ホームページ <http://ffgs.fujifilm.co.jp>

RMGT 970が
あなたの **SDGs** を
アシスト **Assist**



人に優しい



地球に優しい



経営に優しい



RMGT 970 モデルは、オペレーターフレンドリーなユーザーインターフェースや作業負担を軽減する自動化 / 省力化機能をはじめ、損紙の削減や電力消費量低減によって省資源 / 省エネルギーに配慮した、人に地球に優しい印刷機です。さらに菊全判ジャストサイズによるコストメリットはもちろん、生産性や印刷物の付加価値を高める各種オプション機能も充実した、経営にも優しい印刷機です。

RMGT 970 モデルは、SDGs に取り組み、サステナブルな成長を目指すあなたの会社を強力にアシストします。

RMGT リョービMHIグラフィックテクノロジー株式会社

<https://www.ryobi-group.co.jp/graphic/>

SCシリーズ断裁機 登場。

効率と安全性が更に進化。ナイフとバックゲージの速度が向上し、クランプ上昇安全機能を搭載。AIとの連携(オプション)も可能です。※eRCシリーズ断裁機との比較。写真はオプション仕様。

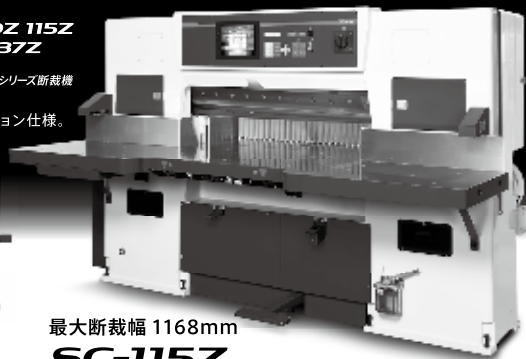
SC 100Z 115Z 137Z
SERIES SCシリーズ断裁機



最大断裁幅 1030mm
SC-100Z



最大断裁幅 1370mm
SC-137Z



最大断裁幅 1168mm
SC-115Z

Safety Speedy Smart



CIP4に対応
(オプション)

ITOTEC
イトテック株式会社

製品や機能の詳細など、お気軽にお問い合わせください。

<https://www.itotec.co.jp>
e-mail info@itotec.co.jp

本社 〒484-0912 愛知県犬山市舟田10-4 TEL 0568-67-5311 FAX 0568-68-0495
[支店、営業所、サービスセンター] 東京・大阪・四国・福岡・札幌・新潟・仙台

巻頭言

「何事にも感謝の気持ちを忘れずに」

組織・共済委員長 北川 毅

今年度の組織・共済委員会委員長を仰せつかりました北川毅です。

前年度まで3年間、組織共済委員会委員として活動してまいりましたが、コロナの状況もあり本来進めて行く事業が中止になり活動がしっかり出来ませんでした。その中で活動した時には先輩方からアドバイスなど頂き助かり、また丁寧にご説明して頂き感謝の気持ちでいっぱいです。今年度はコロナの状況も緩和されつつありますので、組合員様にとって有益な各種保険、サービスの情報提供、他の委員会、他団体含め横と縦の両面から交流を計らせて頂き、委員会の皆様とリアルをメインにリモートとハイブリッドにて、田中副理事長と委員会の皆様と懇親を深め交流を活発に行い結束して良い委員会に出来ますよう頑張らせて頂きたいと思えます。何卒宜しくお願い申し上げます。

先日よりコロナ緩和もあり、国内の経済も活発になりつつ、いろいろな場所で本来コロナ前に行っていたイベント、お祭り等が開催されつつあります。私もイベントなどに顔を出させて頂くと、数年ぶりにお会いできる方もたくさんお見え、「元気でした?」とか「あの時ありがとね?」とかたくさんの方々と健康な姿で元気にお会いできる喜びと感謝で嬉しく楽しく思う事がたくさんあり幸せです。

この喜びを感じ、ふとここ数年振り返って同時に

考え思う事が多々あるなど感じます。

会社の事業に関しましては、コロナでの新たな働き方に伴いスタッフとのコミュニケーションの取り方など大きく変化し、ペーパーレスの加速化、デジタル化の加速で厳しい中での新たな事業の模索構築を進めて苦労した気がします。その中、スタッフから新たな提案があったりして、スタッフと全員で考えたり、討議したりする機会がたくさん増え結束力が生まれた気がします。自分だけで悩まずスタッフと真摯に向き合えた事に感謝です。私としまして、コロナ中で不安ばかりあるスタッフに少しでも期待に応え安心して頂けるよう頑張ってお守り抜く決意が出来ました。

家族に関しても同様で嫁、息子達、妹、義夫、辛い時、苦しい時、親身に相談乗ってくれて支えてくれた事も感謝しかないです。

また、お客様、友人にも可愛がれ、楽しく、時にはアドバイスを沢山の方々に頂け幸せで感謝しかありません。本当に幸せを沢山感じ思いました。

今後は、この感謝をしっかり心に留めマイナス思考ではなくプラス思考で、皆様に恩返し出来るよう家族、スタッフと常に素直に謙虚に強がらず相談しあえる環境に出来るように努力していきたいと思えます。

『印刷業向け業務パッケージの決定版 P-MAN』

印刷情報管理システム

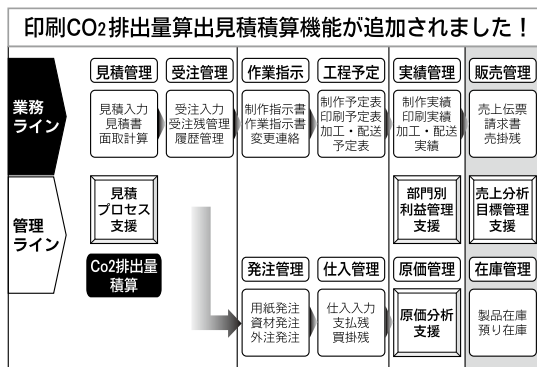


P-MAN Business e-Brain
Print Manager

見積・受注・制作予定・印刷予定・加工/配送予定
在庫・発注仕入・販売・原価システム

営業情報を正確に早く、制作・製造部門に伝えることで生産性の向上、ミス・ロスの低減を行い利益向上を計ります。

『導入実績100社』 『今こそ!!情報の見える化(MIS)』



株式会社 モトヤ 〒542-0081 大阪市中央区南船場1-10-25 TEL. 06-6261-1931
〒104-0032 東京都中央区八丁堀4-5-5 TEL. 03-3623-8711

DX事業で印刷業界の構造改善

全国から名古屋に310名が結集

高付加価値

コミュニケーションサービス産業へ!

3年ぶりに開催されたフォーラム



全日本印刷工業組合連合会（滝澤光正会長、全印工連）は9月30日名古屋栄の名古屋東急ホテルにおいて「2022全印工連フォーラム」を開催した。理事長会、各委員会、全青協代表者会議、全体会議、懇親会などを通じ、全印工連事業への周知と共に情報交換が行なわれた。また、DXパネルディスカッションでは「DX-PLATで手に入れよう『未来』という名の搭乗券 ～実践メンバーの思考と理想から読み解く印刷業の新次元～」をテーマに、4グループの取り組み事例や最新情報が紹介された。当日は全国から310名が名古屋に参集した。



開会挨拶を行なう
鳥原久資副会長

「DX-PLATで手に入れよう『未来』という名の搭乗券」

【創造するときのキーワード】

全体会議は、開催工組を代表して鳥原久資副会長（愛印工組理事長）が挨拶に立ち、多数の参加に謝意を表した後、「3年ぶりに全国の仲間が集うことができた。コミュニケーションを図るとき、また、新しいことを創造するとき、一つのキーワードがあるといわれている。それは、『志を同じくする仲間が、同じ時間、同じ場所で、同じことを考え議論する』。今日は絶好の機会である。充実した時間をぜひ皆さんと共に作り上げたいと思う」と述べた。

続いて、滝澤会長がメッセージを発表した。メッセージの中で、「DXとは業務のデジタル化だけではなく、製品やサービスのデジタル化により新規事業を構築することを指す。データを活用した業態変革、生産性の改善、業務の自動化・効率化による既存事業の変革である。DX-PLATにより自社の得意な仕事を行ない、稼働率を高めて収益を上げ、発注者側にも還元する。それによる収益と余裕の時間が新たな価値となり、新事業を生み出す源泉になる」との考えを示した。（会長メッセージは別項に紹介）。

【各委員会報告】

続いて、各委員会、全青協代表者会議の報告が行なわれた。

■産業戦略デザイン室／瀬田章弘委員長

長期的には、2050年の産業ビジョンで我々が社会にどういったことが貢献できるのか、どういうビジネスが成り立つのか、これらのテーマを研究し、来年の全日本印刷文化典での発表を目指している。DXによってどのような価値が創出されるかも研究しており、まもなくレポートをみなさんに配信させていただく。

短期的には、委員が各地に伺い、各県工組が抱えている課

題について、膝をつきあわせて話を聞かせていただきたいと思っている。

■カーボンニュートラルプロジェクトチーム／小島武也委員長

今年の5月の総会でカーボンニュートラルプロジェクトチームが三役直轄組織で設立した。

カーボンニュートラルになぜ取り組まなければならないか。改正地球温暖化対策推進法に明記されており、2050年までに実質カーボンの排出量をゼロにするとなっている。カーボンニュートラルを実現するために、我々のミッションとしては、全印工連カーボンニュートラル指針を出して、何を、どのように、どの程度実現していくのかを示したい。経済合理性とその理念のバランスをとりながら、皆さんが取り組めるような型で指針を取り纏めたいと思う。

■経営革新マーケティング委員会／田島義之委員長

コロナ禍で一般的になったリアルとオンラインのハイブリッドセミナーを今年度も多数で企画している。

昨年度から取り組んでいる基幹業務システム「BRAIN（ブレイン）」は、中小印刷会社向け汎用業務基幹システムになっており、クラウド型でリーズナブルなサブスクリプション課金方式で10月にリリースする予定である。それに伴い、8月29日に行なった導入効果や機能を紹介する導入説明会を全印工連の動画配信サイト「印カレ」にアップの予定である。

■環境労務委員会／小島武也委員長

サステナブルな社会、会社の実現というテーマに、環境と労務の面から実現することを施策としている。

環境については、環境マネジメントの普及と啓発を推進している。環境になにかしたいが、何から始めればいいのかわか



パネルディスカッションでは4つの事例が紹介された。
左から、江森、川瀬、飯尾、権名津、今井の各氏

らないといった時に、こういった環境マネジメントのシステムを使うとパッケージ化された仕組みで、環境への取り組みが非常にしやすい。特に環境推進工場登録は昨年度環境ラベルなどデータベースに登録され、GP、他の環境のマークも同じ位付けになった。非常に取りやすい資格でもある。

労務面では、最低賃金が、全国平均で930円から961円と31円上がる。上がるとパートさんは103万の壁があるので就業制限をするようになる。雇用調整助成金の金額が変わり15,000円貰えたものが8,355円と下がった支給になる。

労働安全衛生法で職長への安全衛生の教育というものが義務化され、その対象が印刷、製本業に拡大された。是非今のうちに教育をするようにしていただきたい。

■組織共済委員会／浜田彰委員長

共済キャンペーン、BCP事業継続計画の推進、介護共済の加入促進、そして生命共済ライブピアのPR動画作成について協議をした。

令和3年度の共済キャンペーン表彰については、第3位までの表彰は広島県、大阪府、富山県の各工組。4位から10位までは、石川県、和歌山県、鹿児島県、東京都、埼玉県、香川県、山口県の各工組になった。表彰式は11月17日に開催される理事会にて行なう。

BCP事業継続計画について、組織共済委員会では中小企業庁各地経済産業局が主催している認定制度「事業継続力強化計画」の推奨を行なっている。

■教育研修委員会／富澤隆久委員長

教育研修委員会の事業は、大きく分けると4つぐらいのカテゴリーに分かれる。一つ目は、全印工連特別ライセンスプログラム、二つ目は、技能検定で今期は技能検定プリプレス職種DTP作業という検定事業を行なっている。三つ目は、印刷営業講座の印刷営業士の試験になる。四つ目は、教育動画サイト「印カレ」のホームページの制作である。この4つが事業になっている。オンラインでの教育メソッドは、一つの県だけでなく、各地区や全国単位での実現ができる。それを教育研修委員会がイニシアチブをとって推進していく。

■CSR推進委員会／浦久保康裕委員長

昨日、全印工連フォーラムに先立ちCSRサミットを開催した。CSR推進部にダイバーシティ推進部を立ち上げ、部長は東京工組の杉野さんになってもらった。メンバーはオール女性である。女性経営者、経営後継者の悩み、希望を持って継いで行くためのネットワークの構築を進めている。

もう一つCSR推進委員会の大きな議題は、CSR認定制度とMUDの推進である。持続可能な成長を実現するために、2013年産業界のトップを切ってスタートした全印工連CSR認定制度、制度開始から10年が経過し、全国の印刷会社に着実に広がりつつある。

変化の激しい時代に、成長を続ける持続可能な企業であるためには、社会や従業員の期待に応えることが価値創造に繋がる。CSRで価値創造、そして持続的発展企業へ全印工連CSR認定制度を活用いただける。

■全国青年印刷人協議会／岩村貴成議長

今期のテーマは、「本業(じく)を変えない儲かりノバージョン」というちょっと砕けたテーマ名であるが、簡単にいえば収益モデルの勉強である。自社の収益モデルを棚卸して、課金ポイントを探す。自社がどうやって課金ポイントを見つめられるのか、各ブロック協議会でセミナーを開催している。

代表者会議は、47都道府県の代表者が集まりにくい状況である。人材がいない、青年会が無い、青年会を諦めている県工組もあると聞く。青年会は未来においては必ず活気づける対象となっており、未来の組合をつくる大事なリソースである。

【DX事業パネルディスカッション】

続いて、DX事業パネルディスカッション「DX-PLATで手に

四六半裁

OLIVER 480SD/SDP

LED-UV 搭載

**究極まで追求した
最新テクノロジーを随所に採用し、
更なる高品質・高生産性を実現。**

オリバー480SD
四六半裁4色印刷機

大好評! オリバーSD/SDPシリーズ 菊半裁・四六半裁・菊全判の3機種

最高の製品をお届けすることで、
お客様の満足をお約束します

Sakurai
株式会社 桜井クラフティシステムズ
<http://www.sakurai-gs.co.jp>

本 社
〒135-0032 東京都江東区福住2-2-9
TEL.(03)3643-1131(代) FAX.(03)3643-1138

中部営業所
〒501-3733 岐阜県美濃市3951
TEL.(0575)35-2551(代) FAX.(0575)35-2881

大阪営業所
〒532-0012 大阪市淀川区木川1-3-11
TEL.(06)6308-6651(代) FAX.(06)6308-6679

九州営業所
〒810-0001 福岡市中央区天神5-5-8
TEL.(092)741-2672(代) FAX.(092)741-2670

岐阜工場
〒501-3733 岐阜県美濃市3951
TEL.(0575)33-1260(代) FAX.(0575)33-3146

ISO 9001:14001 認証取得
生産技術本部

滝澤会長メッセージ

全印工連によるDX推進事業 「DX-PLAT」

新たな価値創出へ



滝澤 光正
全日本印刷工業組合連合会
会長

事業継続のための価格転嫁

私は2年半前の会長就任以降、印刷産業の構造改革が必要ということを中心に据えた。この2年余にわたるコロナ禍における印刷需要の減少は、最初のうち1年か1年半過ぎればまた元に戻るのではなかろうかと、多くの皆さんがお考えだったと思う。このコロナは数ヶ月毎に変異を繰り返し、現在は第七波が収束しつつあるという状況である。この先もコロナとの共生を前提に、暮らしや働き方、そして私たち企業においては、情報伝達や生産手段を変える動きが浸透してきている。

全印工連の2025計画での出荷額の予想では、2015年比、8割の市場になると予測を立てていたが、残念なことにこの予測をなぞるような経過をたどっている。この現在の8割の市場というのは、決して一時的なものではなく、今後このような状況が恒常的に続いていくということ、そしてコロナと共に悲しいことに、2月から始まっているウクライナ情勢によって、エネルギー、資材価格の高騰が続いている。このような状況下において、私たちは適正な価格転嫁の取り組みを経ずして事業継続をしていくことはかなわない。10月から最低賃金が大幅に引き上がる。価格転嫁をしなければ、賃上げの原資も確保できない状況になっている。全印工連ではかね

てより中小企業庁取引課へ訴え、あるいは政治連盟と共に一般の電力料金高騰に対する中小企業政策への働きかけなど、ロビー活動を行なっている。是非ご理解をいただきたい。

デジタルトランスフォーメーションの活用

本日のフォーラムの中心テーマはDX(デジタルトランスフォーメーション)である。現在、IoT、AI、ビッグデータ、あるいはロボティクスなどの新たなテクノロジーが登場しているが、こうした支援技術は長期的、継続的には企業を成長させる決定打ではなく、あくまでも促進剤であるといわれている。翻って私共印刷業界は、古くは活版からオフセット、そして写植から電算写植、DTPへと飛躍的な技術革新を遂げてきたが、それらは結局、それまで優秀であった会社がさらに優秀になったということはあっても、飛躍的に優位性の変化が生じたことは、長期的に見れば起こらなかったのではないかと思う。しかし、かといってこれが事実には乗り遅れた会社はやむなく衰退するということは余儀なくされた。企業の存続にとって何よりも重要なのは、ビジョンとミッションを明確にすることで、昨年全印工連が刊行致した「INSATSU未来トランスフォーメーション」でも強く訴えさせていただいた。つまり、自社は何を実現するのかを目的とし、そのために何を成し遂げるか、このビジョンとミッションを明確にし、そ

入れよう『未来』という名の搭乗券 ～実践メンバーの思考と理想から読み解く印刷業の新次元～」が開催された。江森克治DX推進副委員長が進行役を務め、パネリストには、トライアルを実行している川瀬健二(カワセ印刷㈱)：「協創プラットフォーム『1-2-Cコンソーシアム』」、飯尾賢(㈱岐阜文芸社)：「DMのプロ集団」、権名津隆治(㈱明朗社)：「四国DX」、今井孝治(今井印刷㈱)：「MIS『BRAIN』の開発」の4氏が、自社グループの紹介とDX-PLATの取り組み、目的、進行状況などを披露した。席上、江森進行役は「DX-PLATは、名の通りあくまでもプラットフォームである。1社での成長が難しい時代に、同じ志を持った仲間と利用できるツールとして捉え、新しい連携の形を考えるとところから始めていただきたい」と、DX-PLATの活用をアドバイスする。

【印刷文化典広島大会】

「全印工連特別ライセンスプログラム」の説明後、「2023全日本印刷文化典広島大会」のPRが行なわれた。中本俊之大会委員長(広島県印刷工業組合理事長)はじめ大会委員が登壇



岡本泰日本グラフィック
サービス工業会会長



中本俊之大会委員長

し、中本委員長が、「我々は2019年に実行委員会を立ち上げた。しかし、2020年に予定されていた長野大会が1年延期となり、そして2021年長野大会が中止となった。我々は長野県工組の4年間の熱い思いを受け継いで、是非とも広島大会を成功させたい」との意気込みを述べた。また、宇都宮公徳実行委員長は「地元愛が強い広島では、広島カーブが勝つと非常に盛り上がる。そうした元気も感じ取ってもらい、未来の日本、そして印刷産業を盛り上げるため語り合いたい」と、大会

の上で、新たな技術、今日的にいえばデジタルツールであるデジタルトランスフォーメーションの活用が手段の一つとして考えられる。

印刷プラスアルファのサービス

全印工連では、もう17年にわたり業態変革を訴えてきた。業態変革は、つまり、売り方、売り物、売り先、このいずれか一つを変革する。その上で大事なことは、繰り返しになるが、ビジョン、ミッションを実現させるために何をどう変えるかということである。その理念のもとに、新たな商材やビジネスモデルを実現する。物が溢れ、価値観が多様化した現在において、変革の方向性はもはや他社のケーススタディーやビジネスモデルの真似に頼るだけでは解決できない。今後は各社が印刷をコアに、それぞれのお客様のニーズとWantsに的確に応え、印刷プラスアルファのサービス、私たちの業界全体としては単なる受注請負型の業界からいち早く脱却し、各社のそれぞれの特徴を生かした高付加価値コミュニケーションサービス産業への転換を目指さなければならない。

変革の方向性については、過去の全印工連の刊行物、「印刷道」や先ほど申し上げた「INSATSU未来トランスフォーメーション」で詳しく述べている。ビジョンとミッションの重要性と業態変革については以上の通りであるが、これらを成し遂げる促進剤としてのDXを本日ご紹介したい。

DXの定義や重要性については、これまでの地区協やセミナーで伝えてきた。DXとは単なる業務のデジタル化だけでなく、製品やサービスのデジタル化を指す。データを活用した業態変革、データ化による生産性改善、データを活用した業務の自動化、効率化による既存事業の変革、さらには製品やサービスのデジタル化を進め、新規事業を構築することがデジタルトランスフォーメーションである。

DX-PLAT運用の4つのメリット

DXとは、これらに取り組むことによる企業文化の変革、それによる競争上の優位性だと定義されている。しかし、何から取り組めばいいのか。そこで現在の全印工連プラット

フォームを活かし、協力し合って全体で相乗効果を図ることである。受注の自動マッチングによりワークフローを効率化し、メーカー横断でデータのやりとりが自動化できる。準備や段取りを自動化することで、稼働率は上がり、生産性が飛躍的に向上する。さらに、このDX-PLATの稼働に今後多くの取引データや生産データが蓄積される。これらが更に、新たなマーケティング戦略や設備投資へと繋がっていく。

DX-PLAT運用のメリットは4つだと考えている。1つ目は、設備の稼働率向上と最適化、2つ目が、高度な品質や仕様、納期などが求められる仕事のコスト削減、3つ目が、受注業務や管理業務の合理化、そして最後の4つ目は、それらによる新たな価値創出である。稼働率の低い設備のリプレースや人的資本資源の有効活用こそ事業存続には欠かせない。DX-PLATにより自社の得意な仕事を集めて稼働率を高めて収益を上げ、発注した側にもその利益を還元する。このことによって、収益と余裕の時間、新たな価値、そして新たな事業を生み出す源泉になるものと考えている。重要なことは、自社のビジョンとミッションを明確にし、各社が事業領域を再構築することにある。それに加え、不要な設備を新たなワークフローへと進展させ、社員の皆さんの社員教育リスキリングを行なう。自社の向かいたい方向や強みを活かし、お客様や社会の課題解決に柔軟に対応できるように変革していくことが求められている。それには自社にしかできない解決策を生み出す力が重要であると考えている。

各社がさまざまに進化することで、印刷業界全体では多様性のある非同一化の状況へと進むことができる。そこを全印工連としては目指していく。独自の専門性を持った各社がDX-PLATで繋がり共創をすることで相乗効果生まれる。全印工連のDX-PLATを正しく理解していただき、自社の変革のツールとして活用していただきたい。そして、共に新たな時代における印刷産業を高付加価値コミュニケーションサービス産業へと進化させ、引き続き社会における重要な産業としてプレゼンスを獲得していきたいと願っている。



印刷文化典広島大会をPRする広島工組の皆さん

への参加を呼び掛けた。

<2023全日本印刷文化典広島大会>

●キャッチフレーズ:「真っ赤に燃やせ! 印刷魂 ~水の流
れが大地を創る。人の心が未来を開く~」、●開催日:2023年
10月13日・14日、●会場:リーガロイヤルホテル広島。

【懇親会】

全体会議終了後に懇親会が開かれ、日本グラフィックサービス工業会の岡本泰会長が挨拶に立ち、「私共のグラフィックサービス工業会でも、ジャグラコンパクトDXを立ち上げている。ジャグラDXは、生産性の向上、MIS、地域活性化、業態進化の4つの事業で取り組んでいる。従業員10人以下、年間売り上げ1億円以下の会社でも、安価に、若しくは無償でDXに取り組めるように、いろいろなノウハウやソフト、ネットワークを提供していこうと考えている」と事業を紹介。その上で、「全印工連の皆さんと共に業界を盛り上げていきたい」との抱負を語った。

細井俊男全印工連相談役による乾杯の発声で懇親会がスタートした。

SDGsを企業経営にいかに活かすか

～地域のありたい未来にしていくために～



全日本印刷工業組合連合会（滝澤光正会長、全印工連）のCSR推進委員会では、9月29日名古屋駅前のウインクあいち（愛知県産業労働センター）において「全印工連CSRサミット2022」を開催した。「SDGsを企業経営にどう活かすか ～地域のありたい未来にしていくために～」をメインテーマに、亀井善太郎全印工連CSR認定委員長の基調講演、愛知県、㈱アイシン、南陽高校、愛知県印刷工業組合によるパネルディスカッション、さらに、2つの分科会が行なわれた。出席者は全国の印刷工業組合・組合員および一般参加者を含め145名。司会進行は、全印工連CSR推進委員会の荒川壮一委員（愛印工組副理事長）が努めた。

CSRサミット2022の会場

基調講演・パネルディスカッション・分科会

開会の挨拶に立った全印工連CSR推進委員会の浦久保康裕委員長（副会長）は、「全日本印刷工業組合連合会では環境に配慮したGP認定制度、さらには環境推進工場の推進、高齢者、視覚障がい者、障がい者、外国人など情報弱者と呼ばれる方々への情報伝達分野に配慮したメディア・ユニバーサルデザイン、個人情報の保護のJPPS、そして、2013年より運用をしている日本初となる業界のCSR認定制度を推進している。この認定制度の中にSDGsの17のターゲットの紐付けをし、昨年より本格的な運用をしている。我々は、このような活動を通じて、企業、そして業界の社会的責任を果たしていると思っている。さらに今後、この活動を企業経営の中にどのように生かして行くのか、そして行政、企業の調達活動、いわゆるSR調達にどのように採用してもらうのかを大きなテーマとして取り組んでいる。ご承知の通り調達は、企業、行政の制作目標の達成のためには大変有効な手段といわれている。我々の取り組みを活かしながら『三方良し』の考え方で、我々自身も進化をしていきたいと思っている。

本日のCSRサミットは、本来2020年3月に横浜で行なう予定であったが、コロナの緊急事態宣言が出たタイミングから

開催がこの時期になった。基調講演、パネルディスカッション、分科会の3部構成で行なう。長丁場ではあるが、いかに企業活動の中に活かしていくかのヒントをたくさん盛り込みながら進めていきたいと思っている。

また、本日の資料の中に当委員会が編集した冊子「CSRマガジン『shin』」を同封している。この号には、先日、和歌山で行なったセミナーのダイジェストが掲載されている。お持ち帰りの上一読を賜りたい」と述べた。

次いで、全印工連滝澤会長が定員一杯の参加と関係各位に謝意を表した後、次のように述べた。

「私たち全日本印刷工業組合連合会は、全国の中小印刷会社の組合の連合体で、現在、全国で4,000社の印刷会社で組織されている団体になる。我々印刷産業というのは明治以降、日本の発展とともに成長をしてきた。そして、印刷物を通じ文化の発展ならびに人々の暮らしに彩りを与え、幸せを作るお手伝いをしてきた産業であると自負している。昨今、デジタルメディアの台頭により、従来の紙メディアの役割というのは相対的に小さくなってきているが、私たちは、その長く続いてきた情報を加工する産業であるというプロ意識を持って、メディアが変わろうとも、これからも人々の暮らしを彩り、幸せ



浦久保康裕CSR推進委員長



滝澤光正全印工連会長



亀井善太郎CSR認定委員長



影山摩子弥横浜市立大学教授



パネルディスカッションでコーディネーターの江森克治、
パネラーの鳥原久資、片岡哲朗、羽根実優、加藤真由美、清水
柁哉の各氏(左から)

を作る産業であるという役割は決して変わらない。

現在、4,000社の組合員はまさに日本全国各地にあり、昔から地域の皆様とともに地域発展のお手伝いをさせていただいている。特に印刷産業は行政機関はもとより、地域の金融機関であったり、教育機関であったり、医療機関であったり、商店の皆様であったりと、ありとあらゆる産業の方々をお客様として支えられてきたという経緯がある。まさに本日のテーマであるSDGsを企業経営にいかにかかすか、地域のありたい未来にしていけるために、これからも地域貢献に当然私たち印刷会社は関わっていきたいし、地域の皆様の理解を得ずして、私どもの企業の事業継続はないと考えている。

全印工連では2012年、丁度10年前にCSR認定制度を立ち上げた。これは、環境、コンプライアンスはもちろん、品質、労働安全衛生、さまざまな分野において評価項目を達成した組合企業に、第三者の審査を経て認定のお墨付きを与える制度になっている。現在、4,000社の組合員のうち138社がこの認定を取得している。今後ますます認定社数は伸びていくと思う。2012年にCSR認定制度を立ち上げ、そして2015年には国連でSDGsが採択された。まさにこのCSR認定項目はSDGsの目標に合致する部分が多くある。本日のサミットが印刷産業のみならず全国の各地域における産業のよりよい未来につながるものになれば幸いです。

続いて、亀井善太郎全印工連CSR認定委員長（PHP総研主席研究員、立教大学大学院特任教授）の基調講演「SDGsを企

業経営にどう活かすか ～地域のありたい未来にしていけるために～」が行なわれた。以下、講演要旨である。

亀井講師は、ありたい未来（SDGs）にしていけるためにできることについて、「ボランティアやゴミひろいなど『特別な何か、もよびが、事業を通じてできることはたくさんある。環境に負荷がかからない生産と消費を進める』と指摘。

また、SDGsと企業経営については、「社会課題をいかにして自社の競争力につなげるか。①社会課題解決の実践を通じた、競争力の源泉となる人材の確保・育成・つなぎとめ／社会に役立ち、自己の成長を実感できる職場づくり・企業風土づくり。②社会課題解決を、競争力あるプロダクトやサービスのタネの差別化戦略（付加価値）をベースに／ありたい社会に向けた自社の役割の再定義、自社を含むバリューチェーンのいずれかで差別化し、かけがいのない存在になる。③長期の視点で、利益の創出にこだわることを通じ、漫然と続けてきた社会貢献も見直す／社会の利益と事業の利益の『統合』のために」などを掲げた。

さらに、地域のありたい未来につなげる企業活動の一例として、「地域のありたい未来をつくる×地元の企業の競争力を高める＝『SR(社会的責任)調達』に変える」と紹介。

CSR経営／SR調達を地域密着型中小企業の戦略では、「よりよい社会に繋がる企業経営は、社会問題を重視する『良い顧客』のつなぎとめ・獲得+競争力の資源となる『良い人材』のつなぎ止め・獲得＝地域の中で生き残る企業としての存在意義も強化。大企業と異なり、中長期ではコストで勝てない中小企業が徹底すべきは、他がまねのできない差別化戦略。その元になるのが、社会課題解決であり、その取り組みに関する物語」と指摘する。

続いて、パネルディスカッションに移り、江森克治全印工連CSR推進委員会副委員長（関東甲信越静地区印刷協議会会長・神奈川県印刷工業組合理事長）をコーディネーターに、愛知県政策企画局企画調整部企画課の片岡哲朗主任、㈱アイシン総合企画部サステナビリティ推進室の羽根実優主任、愛知県立南陽高等学校Nanyo Companyの加藤真由美顧問、同清水柁哉部長、そして、鳥原久資愛印工連理事長らをパネリストに行なわれた。

愛知県からは、県のSDGsの取り組みについて説明。2019



KONICA MINOLTA

Giving Shape to Ideas

お客様の可能性を引き出す印刷現場での働き方改革をご提案します。



専任者不要	「スマートに働く」 スキルレスオペレーション
作業の効率化	「無駄のない」 シンプルな印刷プロセス
受注体制の拡充	「アイデアの具現化」 高品質を生むテクノロジー




AccurioPress
C4080/C4070

※写真はC4080にオプションを装着したものです。

コニカミノーラ ジャパン株式会社

プロフェッショナルプリント事業部 西日本営業統括部 営業4部

〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄2-9-15
三井住友海上しらかわビル11F TEL.052-229-4624



共に印刷の未来を創る
つながるプリントラボ
<https://www.konicaminolta.jp/pr/printlab>

令和5年新春 印刷と関連業界 「新年互礼会」開催のご案内

愛知県印刷工業組合では、新春恒例の印刷と関連業界「新年互礼会」を下記要項で開催いたします。

- 開催日時:令和5年1月11日(水)
15時30分～ 新春講演会(下記参照)
17時20分～ 新年互礼会
- 会場:名古屋東急ホテル3階「ヴェルサイユの間」
名古屋市中区栄4-6-8 TEL052-251-2411
- 参加会費:1人20,000円
※講演会のみ参加の場合1人5,000円
☆愛印工組組合員及び賛助会員1人15,000円
※講演会のみ参加の場合1人3,000円
- 申込締切日:12月13日(火)

- 主 催:愛知県印刷工業組合
- 協 賛:愛知県印刷産業団体連絡会

□新春講演会

演題:「定年のない職場を目指して」

講師:関野里美氏

セントラル印刷株式会社代表取締役社長

講演内容:セントラル印刷は10数名の会社。社員は外国人だけでなく、発達障害や心的病を患った方をはじめ多様な方が籍を置いています。「前例のない印刷会社の形をつくりたい」「やりたいことを実現できる会社になりたい」が関野社長の思い。その思いを受けて社員の皆さんも笑顔です。

中小企業だから実現できる多様性の姿がこの会社にはあります。当日、講演の後半では対談形式も予定しています。是非ご参加いただき、未来を創る一助にしてください。

年7月に「SDGs未来都市」に選定され、「SDGs未来都市計画」を策定。全庁を挙げて取り組みを推進しており、SDGsに貢献する各事業の実施、SDGs達成に向けたステークホルダーの取り組みの促進などが実施されている。中でも、愛知県SDGs登録制度は、SDGsの達成に向けて取り組む企業・団体などを登録し、取り組みを「見える化」することで具体的な促進を図っている。2022年9月現在856の企業・団体などが登録している。

(株)アイシンは、企業視点でのSDGsの取り組みを紹介。世界全体の一員としてSDGsの達成に貢献できるように、①既存事業を通じた社会課題の解決(=プロダクトアウト)、②新たな事業による社会課題解決(=マーケットイン)を経済的な成長と両立させることで持続可能な企業として成長する。例えば、具体的な取り組みとして、「カーボンニュートラル活動を通じて、地域社会でのエネルギーと資源の循環・普及に貢献する」としている。

愛知県立南陽高等学校Nanyo Company部は、「SDGsで未来に栄光あれ!」を掲げ、フェアトレード、カーボンオフセット、COOL CHOICEで、アップルサイクル&生産者・消費者・企業・地域社会をも巻き込んだ取り組みを続けている。

こうした活動が認められ、数々の賞を受けているが、今年「JAPAN SDGs AWARD 2022」特別賞を受賞している。ちなみに同校は、名古屋市港区にある公立の高等学校で創業50周年を迎える。

全日本印刷工業組合連合会は、「Happy Industry ～人々の暮らしを彩り幸せを創る印刷産業」を掲げ、印刷産業としての社会的責任を果たすために取り組んでいる「①グリーンプリンティング認定制度、②メディア・ユニバーサルデザイン、③CSR認定制度、④成長のカギは集う社員」などが紹介された。

分科会に移り、分科会①では、「SDGsの視点から見た企業選び」と題し、影山摩子弥横花市立大学国際教養学部教授(全印工連CSR推進委員会特別委員)が講師を務め、就職すべき会社を見極めるためにSDGsの視点から企業分析を行なうツールの説明、分析事例の紹介が行なわれた。

分科会②では、「行政の調達が社会を変える!『SR調達』の可能性と課題」と題し、白子欽也和歌山県印刷工業組合専務理事(全印工連CSR推進委員会委員)が講師を務め、価格ではなくSDGsの考え方を反映させた調達を実践する和歌山県の事例、成果が紹介された。

盛功社の創業は1889年。2018年に130周年を迎えました。
3世紀にわたるご愛顧をいしずえとして
新たな未来へ羽ばたきます。



- 印刷機械 ●製版機械 ●製本機械
- DTP関連機 ●印刷諸材料



株式会社 盛功社
〒461-0014 名古屋市東区榑木町3丁目17番地
TEL 052-932-5611 FAX 052-931-0280
http://seikosha-net.jp/

PUR製本始めました 是非ご利用ください

データから印刷・製本・発送まで
自社一貫体制でお引き受けします

大日印刷株式会社

☎0564-62-8461(代)
FAX 0564-62-8463

大日印刷

検索

CSRサミット 全印工連フォーラムを報告

新年互礼会:令和5年1月11日開催

愛印工組の令和4年度10月期理事会が、10月11日15時30分よりメディアージュ愛知(愛知県印刷会館)3階会議室で、リアルとZoomのハイブリッド方式で開催された。理事会では、9月29日に行なわれた「全印工連CSRサミット」と翌日に開催された「全印工連フォーラム」の報告が行なわれた。出席者は、本人出席21名、Zoom出席5名の26名。司会進行は河原善高専務理事が行なった。

理事会の冒頭、挨拶に立った鳥原理事長は、次のように述べた。「全印工連CSRサミットでは南陽高校、アイシンの外部の方の話が聞けたが、特に高校生の立派な発表には、多くの参加者が関心をしていただき、今の高校生のCSRに対しての関心を改めて感じた。全印工連フォーラムは、丸3年開催出来ていなかったのも、コロナなどの制限の中でも開催でき、改めてリアルにまざる物はないと改めて感じた。令和4年度も10月になるが、今月末のポスターグランプリ、そして新年互礼会とまだ行事は続く。皆さんに協力をいただき、充実した組合の運営をしていきたいと思う」。

鳥原理事長を議長に理事会に入り、加入脱退では、加入ナシ、脱退1社が報告された。

【各委員会事業報告】

▽三役直轄事業の第6回ゴルフコンペを9月13日セントクリークゴルフクラブで開催、52社59名が参加と木村吉伸副理事長が報告。

▽三役直轄事業の第13回ポスターグランプリ作品展、表彰式について酒井良輔副理事長が報告。授与賞はグランプリ1点、優秀賞6点、特別賞13点、協賛会社賞35点、入選59点の計114点。作品展は10月25日～30日愛知県美術館8階展示室D、表彰式は10月30日に愛知芸術文化センターアートスペースAで開催。

▽教育委員会事業では、加藤義章委員長が技能検定オフセット印刷作業実技試験及び学科試験について報告。合格結果について、1級の学科試験では受験者6名の内2名、実技試験では11名の内8名が合格。「技能士」称号取得は8名。2級の学科試験では受験者7名の内6名が合格、実技試験では5名が受験したが合格者はなかった。「技能士」称号取得はなし。その他、実施予定の印刷営業講座、印刷営業技能審査認定試験、1月28日開催の技能検定プリプレス職種DTP作業実技試験について詳報。

▽労務・新人教育委員会事業を山本芳弘委員長が、実施済みの断裁機取扱者の特別教育「実技講習」と各事業所で11月1日に行なう永年勤続優良社員表彰について報告。

▽組織・共済委員会事業を北川毅委員長が共済制度加入促進活動及び令和5年1月11日開催の新年互礼会(別項に詳報)とアドビライセンスプログラム加入促進について報告。

※愛印工組は、本年度「全印工連共済キャンペーン」の重点工組となっており協力が要請された。

▽CSR・ブランディング委員会事業を竹倉幹雄委員長が、実施済みのJPPS講習会、環境推進登録制度講習会と10月28日実施予定の中京大学で行なう中小企業経営者と学生の交流会について詳報。

▽経営革新委員会事業を渡辺達也委員長が、9月2日に開催した「インボイス対策セミナー」、2月に計画中の企業見学会についてはコロナの状況をみながら検討中と報告。

▽青年部/名古屋而立会事業について、11月28日ウインクあいちで開催する愛印工組との共催セミナーについて若園俊介理事/名古屋而立会会長が報告。

【支部活動報告】

支部活動報告が行なわれた。報告者は、東北支部・若園俊介理事、西支部・加藤朗支部長、中村支部・渡辺明秀支部長、中支部・岡戸裕明支部長、名南支部・堀裕史支部長、東南支部・江端茂義支部長、知多支部・久野彰彦支部長、東尾張支部・高橋伸幸支部長、西三河支部・杉谷芳紀支部長、西尾支部・三浦康彦氏、東三河支部・水野順也支部長。

その後、荒川壯一副理事長より9月29日開催の「全印工連CSRサミット」について、また、9月30日開催の「全印工連フォーラム」における委員会報告を、経営革新委員会/箕浦靖夫副理事長、教育委員会/酒井良輔副理事長、環境・労務委員会/木村吉伸副理事長、組織・共済委員会/田中賢二副理事長が行なった。



「紙の匠」
meikami
メイカミ
〒461-0018名古屋市長区主税町4-83
名古屋紙商事株式会社
TEL:052-931-2221
FAX:052-932-1418



創造を超えるデザイン、
心に残る印刷。.....
デザイン~印刷まで
トータルサポート
お気軽にお問合せ下さい。
..... カラー印刷全般

株式会社 プロスペック
〒453-0855
名古屋市中村区烏森町6丁目108番地
TEL(052)482-3117(代表)
FAX(052)482-3118

info@ps-prospec.co.jp https://www.ps-prospec.co.jp/

■「過労死等防止啓発月間」に併せ

11月は「過労死等防止啓発月間」

STOP!過労死ゼロ 労働時間の適正な把握と健康管理体制の整備

- 過労死などに繋がる過重労働への対応 ● 長時間労働の是正
- 賃金不払い残業の解消

長時間労働や仕事のストレスなど、過重労働となる要因を取り除き、働く人の健康を維持することは、人を雇用する事業主や会社の義務になる。今年も厚生労働省、都道府県労働局、労働基準監督署などを主体に、「過労死等防止啓発月間」が11月に展開される。この啓発月間に併せ過労死などの一つの要因ともなっている長時間労働の削減とともに、過重労働解消に向けた集中的な周知・啓発の取り組み「過重労働解消キャンペーン」も実施される。月間中は、国民への啓発を目的に、各都道府県において「過労死等防止対策シンポジウム」を行なうほか、長時間労働の是正や賃金不払い残業の解消などに向けた重点的な監督指導やセミナーの開催、一般からの労働に関する無料相談「過重労働解消相談ダイヤル」などを行なう。

■労働時間の現状

厚生労働省では、労働時間などの現状について、「週の労働時間が60時間以上の労働者の割合は近年低下傾向であるものの、労働者全体の5%以上となっており、いまだ長時間労働の実態が見られる。また、脳・心臓疾患が業務上によるものと認められた労災支給決定件数についても、依然として高い水準で推移する。近年では、仕事上の強いストレスが原因となって、うつ病などの精神障害を発病し、それば労災と認められる件数も年々増加している」と現状を報告している。

さらに、過重労働と健康障害の関連性についても、「長時間にわたる過重な労働は疲労の蓄積をもたらす最も重要な要因である。具体的には、時間外・休日労働が月45時間を超えて長くなるほど、業務と脳・心臓疾患の発症との関連性が強まる」と警鐘を鳴らす。

この過重労働による健康障害などを防止する措置として挙げられているのが、「時間外・休日労働時間の削減」、「年次有給休暇の取得促進」、「労働者の健康管理」などである。

■過重労働による健康障害の防止

● 時間外・休日労働時間などの削減

労働基準法が改正され、法律上、時間外労働の上限は原則として月45時間・年360時間となり、臨時的な特別な事業がなければこれを超えることはできない。臨時的な特別な事情があって労使が合意する場合（特別条項）でも、法律に定める上限を守らなければならない。

時間外労働は本来臨時的な場合に行なわれるもので、36協定（時間外労働・休日労働に関する協定）の締結にあたっては、労働者の代表（労働者の過半数で組織する労働組合または労



「STOP! 過労死。を訴えるパンフレット

働者の過半数を代表する者)とともに、その内容が指針「労働基準法第36条第1項の協定で定める労働時間の延長及び休日労働について留意すべき事項に関する指針」に適合したものとなるようにしなくてはならない。

● 年次有給休暇の取得促進

年5日の年次有給休暇（年休）を確実に取得することが必要になっているが、これは最低基準である。労働者に付与された年休は、本来すべて取得されるべきもので、年休を取得しやすい職場環境づくり、年休の計画的付与制度の活用などにより年休の取得促進を図る必要がある。

● 労働者の健康管理に関わる措置の徹底

健康管理に関わる措置として、「①健康管理体制を整備し健康診断の実施、②長時間にわたる時間外・休日労働を行なった労働者に対する面接指導などの実施、③労働安全衛生法が改正され、面接指導の対象が、『時間外・休日労働時間が1か月当たり80時間を超え、かつ、疲労の蓄積が認められる者』などが呼び掛けられている。

● 賃金不払い残業の解消

賃金不払い残業を解消する対策として、「①職場風土の改革、②適正に労働時間の管理を行なうためのシステムの整備、③労働時間を適正に把握するための責任体制を明確化しチェック体制を整備する」などが挙げられている。

過重労働による健康障害を防止するには、過重労働解消キャンペーン月間のみならず、「過重労働ゼロ」を念頭に、常日頃から心掛けることを忘れてはならない。

■過重労働解消キャンペーン

過重労働解消キャンペーン期間中の主な取り組み事項。

①労使の主体的な取り組みを促進：使用者団体や労働組合に対し、長時間労働削減に向けた取り組みの周知・啓発などの実施について協力要請を行なう。

②都道府県労働局長による企業への職場訪問：長時間労働削減に向け積極的な取り組みを行なっている「ベストプラクティス企業」を訪問し、取り組み事例について地域に紹介。

③過重労働が行なわれている事業場へ重点監督を実施。

【監督の対象とする事業場】

● 長時間にわたる過重な労働による過労死などに関わる労

災請求が行なわれた事業所。●離職率が極端に高いなど若者の「使い捨て」が疑われる企業。

【重点的に確認する事項】

●時間外・休日労働が36協定の範囲内であるか確認し、法違反が認められた場合は是正指導。●賃金不払い残業が行なわれていないか確認し、法違反が認められた場合は是正指導。●長時間労働に対しては、医師による面接指導など、健康確保措置が確実に講じられるよう指導。

【書類送検】

●重大・悪質な違反が確認された場合は送検し公表する。

■問い合わせ情報：ホットライン

※厚生労働省ホームページ：<https://www.mhlw.go.jp/>

※労働条件相談ホットライン：TEL0120-811-610(月～金17:00～22:00 / 土・日・祝日9:00～21:00)

※確かめよう労働条件：働く人や事業主、人事労務担当者向けの労働基準関係法令など、知っておきたいルールや労務管理の改善に役立つ情報などを掲載している労働条件に関する総合サイト。時間外・休日労働・年次有給休暇・労働者の健康管理などチェックできる。確かめよう労働条件サイト：

<https://www.check-roudou.mhlw.go.jp/>

※働き方・休み方改善ポータルサイト：自社の社員の働き方・休み方の見直しや改善に役立つ情報を提供するサイト。「働き方・休み方改善指導」を活用し自己診断や企業の取り組み事例を検索して参考にできる。豊富な取り組み事例の中から自社内で活用ができる。働き方・休み方改善サイト：<https://work-holiday-mhlw.go.jp/>

過労死等防止啓発月間 過労死等防止対策推進シンポジウム

近年、働き過ぎやパワーハラスメントなどの労働問題によって多くの尊い命や心身の健康が損なわれ深刻な社会問題となっている。本シンポジウムは有識者や過労死で亡くなった方の遺族にも登壇していただき過労死等の現状や課題、防止対策について探る。

●日時：11月30日(水)14:00～16:30

●会場：名古屋市中小企業振興会館7Fメインホール(名古屋市千種区吹上2-6-3) ※地下鉄「吹上」5番出口より徒歩7分、市バス「吹上」徒歩5分

●愛知労働局からの報告：「労働施策総合推進法に定める紛争解決援助について」愛知労働局雇用・環境均等部指導課

●基調講演：「ハラスメントからくる労働関連疾患をなくすために」講師：天笠崇氏(静岡社会健康医学大学大学院准教授)

●映像：同朋高等学校放送部制作 映像ドキュメンタリー「過労自殺」

●過労死遺族の声：「放送局記者過労死遺族からの訴え」佐戸恵美子氏(東京過労死を考える家族の会)

※参加申込：特設ホームページ「過労死等防止対策推進シンポジウム」検索の上、参加申込書をWebまたはFAXで。

お知らせ

■全印工連「特別ライセンスプログラム」

12月1日より新契約がスタート

組合員限定の特別価格での提供

2011年に開始しました「全印工連特別ライセンスプログラム」は、現契約が2022年11月30日をもって満了を迎え、12月1日より新契約がスタートします。契約期間は2022年12月1日～2025年11月30日の3年契約になっています。ただし、契約期間中の、途中解約、契約途中のプラン変更、契約ライセンス数の削除、返金はできません。

アドビ社は本年5月にAdobe Creative Cloudの価格改定を行なうなど、一般流通価格が上昇傾向にある中、全印工連特別ライセンスプログラムの新契約においては、引き続き組合員だけの特別価格にて提供が行なわれます。詳細につきましては、先般お送りしましたフライヤー(PDF)をご確認していただきたいと思います。

いずれにしてもコンプリートプランは初年度割引キャンペーンを実施し、単体プラン・Acrobat Proは価格を据え置くなど、価格の値上げは実施されません。組合員企業だけの特別ロープライスでの提供になりますので、是非、ご検討いただきたく再度ご案内をさせていただきました。

令和5年「新入社員研修」に活用できる

「助成金」説明会

11月22日：メディアージュ愛知で開催

愛印工組が毎年4月に実施しています「新入社員研修会」のカリキュラムには助成金が活用できます。令和5年から制度内容、申請書類などが一新されますので、来春、新卒採用をされる会社、また、新入社員研修会への参加を予定されている会社は、助成金活用の参考に是非ご参加ください。

助成金は「受講料に対する助成」+「参加する従業員の賃金助成」になります。

●日時：11月22日(火)午後3時～4時30分

●場所：メディアージュ愛知3階会議室

●内容：①助成金制度の概要

【講師】愛知労働局あいち雇用助成室事業主支援アドバイザー 野澤利治氏

②申請書の手順

【講師】労務・新人教育委員会委員会メンバー

●定員：24名(受講料は無料)

●申込み：「助成金説明会参加申込書」に記入の上、愛印工組へFAXで申し込みください。

全印工連

「CSRマガジン」発行



特集「全印工連CSRシンポジウム」 CSR企業紹介：半田中央印刷

全日本印刷工業組合連合会では、CSR認定企業や最新のCSR情報を紹介するCSRマガジン「Shin - 信頼の絆で共に伸びゆく新時代」第22号を発行した。

今号の特集は、「全印工連CSRシンポジウム」。シンポジウムは基調講演「SDGsの視点から見た調達の将来像」と題し、亀井善太郎 PHP 総研主席研究員・立教大学大学院特任教授が行なった。

講演の中でSDGsを踏まえた調達の実現について、「①調達の資格要件に持続可能性を取り込んでいく。②SDGsへの取り組みを評価するための、加点リストを入札の評価項目の中にしておく。③民間と行政が共同で持続可能性とイノベーション

に挑戦していく」と紹介。

併せて行なわれたパネルディスカッションでは、SR調達に取り組んでいる和歌山県福祉保健部、和歌山県人権啓発センター、リコージャパン、和歌山県印刷工組、NPO法人メディアユニバーサルデザイン協会から、それぞれの立場での状況が報告された。

全印工連CSR認定企業訪問では、愛知県半田市に本社を置く、半田中央印刷(竹倉幹雄社長)が取り上げられた。同社の創業は明治19年に遡り、今日で136年を迎える老舗の印刷会社である。

自社の事業内容について、「今までグラフィックデザインと印刷が中心であったが、新たにデジタルマーケティングに取り組んでいる。9割りが直接受注の顧客で、既存事業領域のグラフィックデザインと印刷や販促企画、WEBデザイン制作に止まらず、顧客のマーケティングプロセス全体にサービスを提供できる会社を目指している」と竹倉社長は紹介する。

地域貢献活動に積極的で、「CSRを意識してというより、日常業務の延長線において、自然体で取り組んでいる。地域においても情報加工や情報伝達を担う印刷会社は、もともと事業そのものが地域社会への貢献型ビジネスであり、そういう風土が会社にも根付きやすいと考えている。活動部隊としては「地域貢献委員会」があり、ここが外部との窓口となって社員にイベント参加を促している。

「地域貢献活動での利点は、地元の金融機関や自治体なども良い関係でいられるし、儲けにならなくても、一生懸命取り組む会社と周りは見てくれる。いわゆる売れ込まない営業で、ブランディングの一つになっている」。

「地域貢献活動は会社全体で、自然体で取り組みことが大事。それらの積み重ねで会社のブランドに繋がっている」など、聞

くことができる。

いずれにしても、地域貢献活動で会社のブランド力を向上させ、行政、団体、企業と連携して地域を育てている。

その他、CSR TOPICS では、日印産連が奨める印刷会社のSDGs導入支援、PrintNext2022などが紹介されている。

※CSRマガジンは、<http://www.ajpia.or.jp> からダウンロードができる。

■全印工連

第38回CSR認定で138社に!

全日本印刷工業組合連合会では、第38回全印工連CSR認定委員会において、ワンスター認定：新規3社、更新15社、ツースター認定：新規1社、スリースター認定：新規3社を認定した。これで認定企業は計138社となった。なお、第40期ワンスター認定は11月1日から来年1月31日までの募集となる。

■日印産連

第68回GP認定で 439事業所に!

日本印刷産業連合会では、第68回グリーンプリンティング(GP)認定委員会において、新規8工場、更新36工場を認定した。この結果GP認定は全439事業所となった。また、同認定委員会においてGP資機材の認定を実施し、3社6製品(洗浄剤4製品、エッチ液2製品)を認定。認定登録製品は766製品となった。

編集だより

■大きなイベントが2つ続き、準備など多忙を極めましたが、無事成功裡に終わることができました。次は、ポスターグランプリです。次号で、表彰式・作品展など詳細をお届けします。

人と人の
コミュニケーションに
大きく関わってきた色。
この色のチカラで、
人の心をもっともっと
豊かにしたい……と
と考えています。

色のチカラ
色彩の。

東京インキ株式会社
TOKYO PRINTING INK MFG. CO., LTD.
名古屋支店 〒460-0022 名古屋市中区金山1-12-14
TEL 052-331-1515(代表) FAX 052-331-1171(代表)
本社 〒114-0012 東京都北区目黒新町2-7-15
TEL 03-3893-5151(平版インキ営業本部)

あいの印刷

No.612

令和4年11月10日発行

発行人 鳥原久資
編集 組織・共済委員会
発行所 愛知県印刷工業組合
〒461-0001 名古屋市東区泉一丁目20番12号
メディアージュ愛知1階
TEL (052) 962-5771
FAX (052) 951-0569

◆ホームページアドレス <https://www.ai-in-ko.or.jp/>
◆E-mailアドレス jimukyoku@ai-in-ko.or.jp

美しさ・誠実・挑戦

お客様に企画、デザインを通し、
真の感動を提供出来る様、
常に進化し続ける企業を目指します。

グラフィックデザイン	Graphic design
ウェブデザイン	Web design
セールスプロモーションデザイン	Sales promotion design
エディトリアルデザイン	Editorial design
アドバタイジングデザイン	Advertising design
オンデマンドプリンティング	On-demand printing

adWISE

株式会社 アドワイズ

〒451-0031 名古屋市中区西城三丁目21-12 サンシャイン浄心南601

TEL 052-528-1070 FAX 052-528-1071 E-mail: ad-wise@ad-wise.biz http://www.ad-wise.biz/



多言語に対応した
デジタルブックを簡単に作成
手軽に配信・快適に閲覧



MORISAWAは、日本障がい者スポーツ協会を応援しています

多言語ユニバーサル情報配信ツール

MC Catalog+

エムシー カタログ プラス

あらゆる紙媒体をデジタル化し、
スマートフォンやタブレット端末に
手軽に配信するサービスです。

詳しくは

www.morisawa.co.jp

●記載されている会社名・商品はそれぞれ各社の登録商標または商標です。
●本仕様は、予告なく変更する場合があります。

Axuas

印刷用紙は、紙営業本部 TEL (052)220-5511
紙のプロフェッショナルとして
「最適」をご提案いたします。



パッケージは、包材営業部 TEL (052)220-5507
皆様の「包む」を
サポートいたします。



LED 照明は、開発事業部 TEL (052)220-5518
地球に優しい
「LED照明」を中心に省エネ化の
お手伝いをいたします。



株式会社 アクアス

〒460-0008 名古屋市中区栄一丁目25番35号 <http://www.axuas.jp>

heart

人から人へ心を伝える ハート紙製品



グリーン購入法適合封筒・環境配慮型製品
名刺・封筒・はがき・カード・賞状・カレンダー

デザイン作成・企画提案から印刷・納品までトータルにサポート
官公庁・企業様、ユーザー様など幅広くご利用いただいております

ハート株式会社

URL : www.heart-group.co.jp



封筒フィーダ搭載で連続印刷可能！ imagePRESS 封筒搬送ユニット

■封筒を補充する際のロスタイムがなくプリンターの性能を最大限に引き出します！

■軽オフの更新時にご検討ください。



KING キングコーポレーション

CORPORATION
〒460-0002 名古屋市中区丸の内3丁目7番23号
TEL:052-961-7661 FAX:052-961-7662

キング封筒



ロマンと効率
2022
輝く企業へ

KOBUNDO

PRODUCTS

フィニッシングソリューション KBD MOLLシステム

FOLDER/GLUER/INSERTING/TAPING

KBD MOLLシステムは、製袋機、グルーシステム、紙折機の機能を統合して、パッケージ等の型紙を自動で製造するユニットシステムです。



デジタル制御高精度シートカッター KBD Value Sheeter I400

KBDバリューシーター1400は、最新の先端技術を採用し、高速で安定した断裁を可能にするシートカッターです。



オートフィードダイカッター

KBD Diginukky500

デジタル印刷のフィニッシングに
最適な新設計のダイカッター登場！



オフィスのPOD横に設置が可能です。100V電源で稼働できるので設置場所を選びません。イーザーオペレーションでオフィス内での運用が可能になります。



印刷機材の総合商社
株式会社

光文堂

本店/〒460-0022 名古屋市中区金山二丁目15番18号 TEL 052(331)4111(代)
支社/東京 支店/東北・静岡・大阪・金沢・北九州・福岡 営業所/北海道・青森
山形・千葉・山梨・沼津・浜松・岐阜・福井・富山・京都・山口・大分・熊本・沖縄